社長インタビュー

FMいずのくに

代表取締役

佐口（さぐち）　俊二（しゅんじ）さん

昨年７月、新たにFMいずのくにの代表取締役に就任した佐口さん。就任に対する思いや今後の展望を聞きました。

最も重要なのは、災害情報の発信

難聴地域の解消を

私が住む地域はコミュニティーFMの電波が届きにくい、いわゆる『難聴地域』です。令和元年の台風19号の際、同報無線が雨風で聴き取れず、防災ラジオでFMいずのくにを聴こうとしましたが電波が入らなかったため、外の状況が全く分からず不安な思いをしました。そんな中で、スマートフォンのアプリでFMいずのくにが聴けることを知り、これは使えると思いましたが、２年ほどで聴けなくなってしまいました。（※）

難聴地域は、ライフラインや情報が寸断されると、陸の孤島になってしまいます。FMいずのくにの社長を引き受けるにあたり、この状況を何とかしたいと考えました。

まずはソフト対策から

令和４年度当初、源氏山にあるFMの送信アンテナを改修する工事のための市の予算が確保されていました。しかし、詳しい調査の結果、源氏山アンテナを改修するだけでは難聴地域問題は完全に解消されないことが分かりました。このため、まずはスマートフォンアプリ『Radimo（レディモ）』を普及しつつ、放送内容を改善するなど、ソフト対策を充実させることで、市民の皆さんにFMいずのくにを聴いていただき、認知度を上げることが優先だと考えました。その上で改めて、難聴対策のためのハード整備に取りかかるべきだと考えています。

心に寄り添うラジオへ

では、放送内容を改善するには、何をしたらいいのか？FMいずのくには、日常的な地域情報の発信と、災害時に必要となる情報の発信が重要な役割です。日常的な地域情報の発信については、市民の皆さんがどんな情報を必要としているか、どんな番組なら聴きたくなるかを考えながら番組を作っていきたいです。そして、災害時に必要となる情報の発信については、FMいずのくにだけでは十分な役割を果たせません。警報が出た初期の段階から災害発生後までのあらゆる段階で、市役所や関係機関から情報が提供されないと、放送できません。今、市役所と話し合い、より効率的な情報の集約方法を再検討しているところです。

FMいずのくには、今年４月で開設10周年となります。これからも皆さんの心に寄り添い、皆さんに必要とされるラジオを目指して頑張っていきますので、ぜひFMいずのくにを聴いてください。

（※）FMサイマル放送アプリが令和３年８月以降にRadimoに移行し、前のアプリが使用できなくなったため。

87.7に
STAY TUNED!

心 Heart

あなたの心に『寄り添うラジオ』を

東日本大震災では、あるラジオパーソナリティーがリスナーから、「地震が発生したとき、あなたの声でハッと我に返ることができた」と言われたそうです。また避難所生活でも、「不安なときや疲れたとき、馴染みのパーソナリティーがラジオから語りかけてくれて、心が和らいだ」など、ラジオが精神的な支えになったというエピソードがあります。

市民の命を守るメッセージは、機械的な文字だけではなく、人の声で語りかけ、心に寄り添うからこそ、響くのではないでしょうか。情報を伝える以上の役割が、ラジオにはあります。

また、台風や大地震で停電するとテレビが見られず、スマートフォンも使用し続けると電池を消費してしまいますが、ラジオは一家に一台、乾電池数本あれば、長時間防災情報を提供してくれます。

そしてラジオは、『災害情報の提供』だけではありません。スイッチを入れれば毎日、行きつけのお店のおすすめ商品、学校の様子、ご近所さんの趣味、市政情報や新聞記事など、パーソナリティーが伊豆の国市の『今』を伝えて、『まちを元気に』してくれます。そして、あなた自身も気軽に登場できるメディアなのです。

インターネットやSNSが普及した令和だからこそ、心に寄り添うラジオの温かさが必要だと思いませんか。さあ、あなたも今すぐラジオの周波数を87・7メガヘルツに合わせてみてください。新しい年は、FMいずのくにに STAY TUNED（ご期待ください）！